

NIKKEI DESIGN

No Design, No Business

特集1

家族回帰が生む新市場を デザインで先取り!

特集2 不況下のミラノサローネリポート②
新製品少ないが
トレンド発信は明確に

アトリエ オービーエー / MAWARIDORO

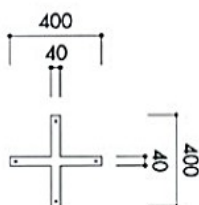
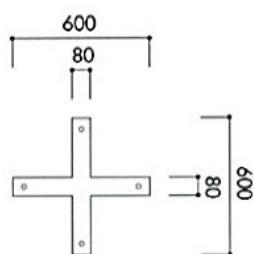
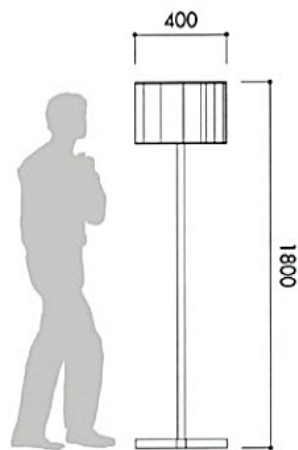
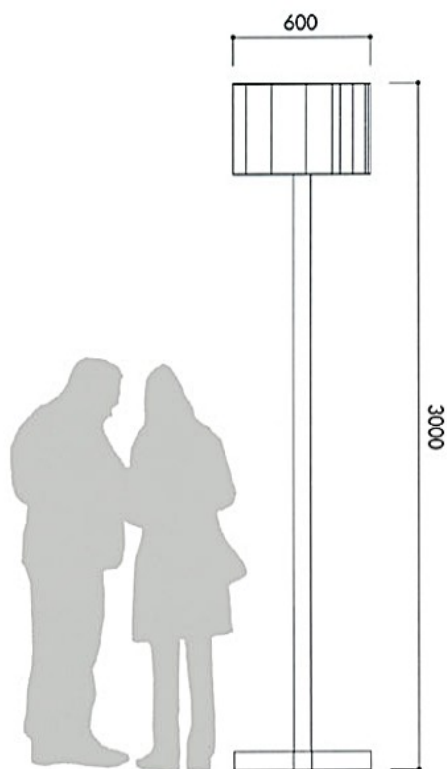
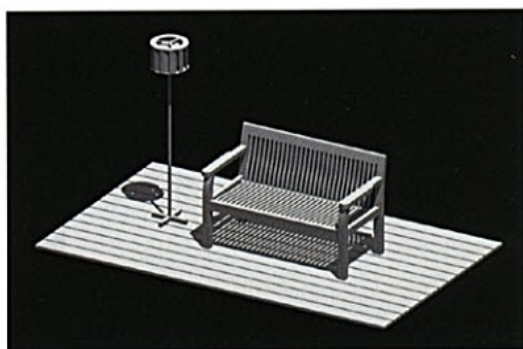
インテリア感覚の優しい風力発電灯



[家庭発電]

秒速1.5メートルのそよ風でも発電し点灯する「MAWARIDORO」。ランプシェード型の風車が風を受け、垂直方向に回転して発電する。ソーラー発電パネルも備えるため、風がなくても、日中に晴れていれば発電し蓄電できる。白熱電球に換算して15ワット～30ワットの明るさで、庭先やテラスをほんのりと照らす。ミサワホームが、ゼロCO₂・ゼロエネルギー住宅「SMART STYLE ZERO」のオプションとして採用した

小型で、フロアランプを思わせるデザインのため、庭先などで家族が集まるシーンを提案する。左の大振りな「WTL-3」は、32個のLEDを備え、標準価格は39万8000円。右の小振りの「WTL-1」は、16個のLEDで発光し、標準価格は19万8000円



家庭発電と言えば、ソーラー発電パネルを屋根一面に敷き詰めた外観を思い浮かべる。発電容量が大きく、家庭内で使用する電力をまかなうだけでなく、余った電気を電力会社に販売できるとうたうシステムもある。非常に魅力的な製品だが、初期投資が数百万円に及ぶため、普及のスピードは緩やかだ。

「もっと手軽に購入できて、家族の暮らしを少しだけ豊かにするような自家発電システムの方が、現時点では現実的で

はないか」。アトリエ オーピーエーに籍を置く建築家、鈴木敏彦氏はこう考え、風力発電関連の技術開発と製品開発に取り組むオンウェブと共同で、風力発電灯「MAWARIDORO」を開発し、商品化した。

MAWARIDOROは、風力で回転するシェード型の風車を備えた屋外灯。発電部、蓄電部、発光部がシェード内に一体化されているため、極めてシンプルな構造だ。風がどの方向から吹いても風車

が回転し、回転に必要な風速もそよ風程度であるため、設置場所を選ばず、家庭向きと言える。

「風車やLEDなどのデバイスが小型・軽量であるため、デザインの自由度が高い。そこで、屋外灯ながら、インテリア照明のデザインを取り入れた。デッキにMAWARIDOROを設置し、そばにベンチやいすを置けば、すぐに家族が集まれる空間になる」(鈴木氏)。

1日中吹く風や、昼間の太陽光で発電した電気、夜になれば自然と庭先に明かりがともる。防犯効果もあるが、食後にそこでお茶や食後酒を楽しんでもいい。家族回帰の新しいシーンが目に見える。そんなシーンにあって、MAWARIDOROに不自然さを感じないのは、我々が見慣れたインテリアデザインを引用しているからにほかならない。

MAWARIDOROの標準価格は、小振りのタイプで19万8000円。決して安価とは言えない。また、設置に際しては、アンカーボルトでの固定が必要だ。しかし、MAWARIDOROのデザインが提案するのは、風力発電灯の新しいデザインではない。家族が集まる新しい場のあり方を見せようとする。その点が、既存のエコデザインを超えている。